



高齢者にやさしいまちづくり： WHOエイジフレンドリーシティ の枠組み

2026年2月7日

神田美希子

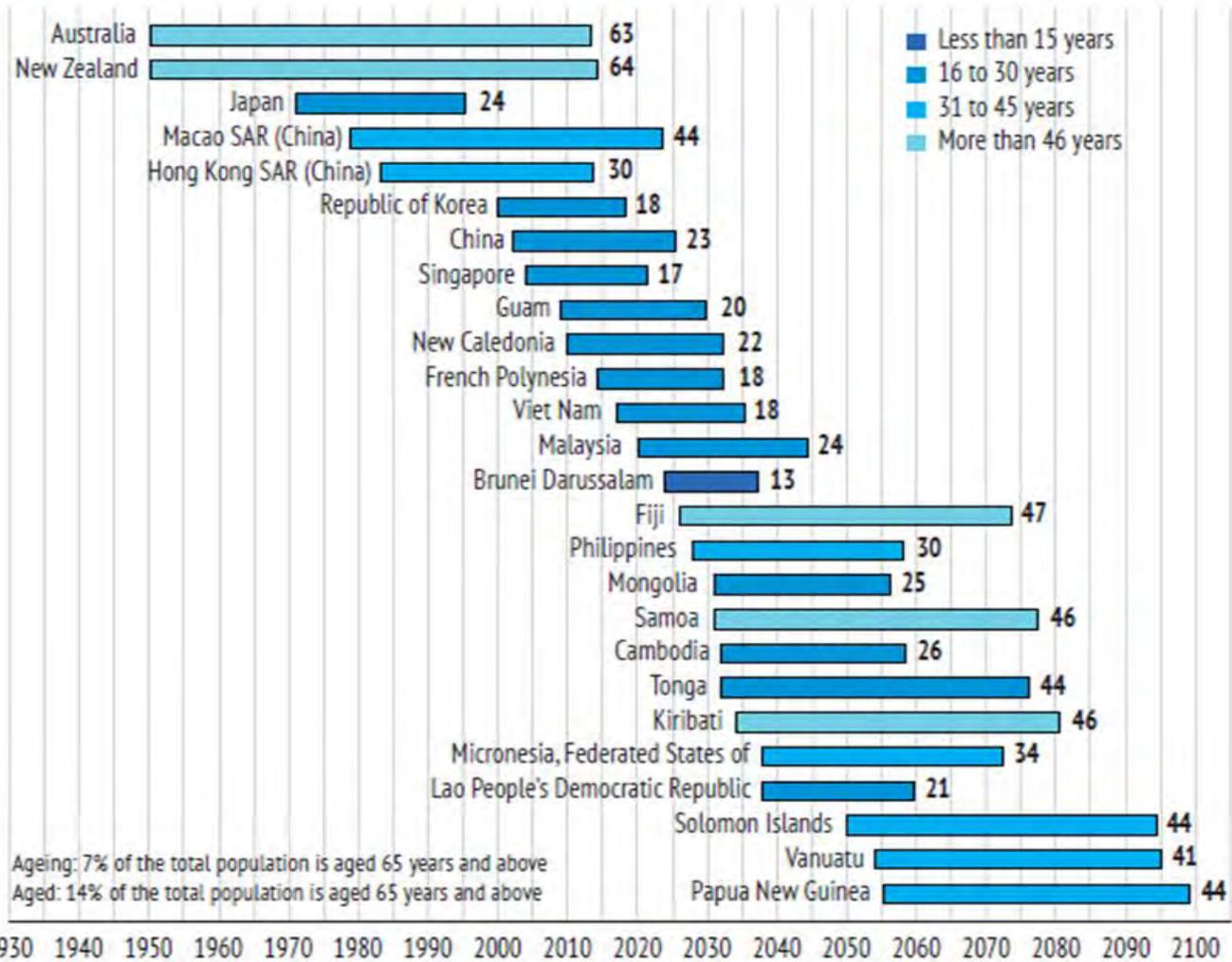
WHO西太平洋地域事務局

データ・戦略・イノベーション部門

テクニカルリード

アジア太平洋でも 高齢化は急速に進行

「高齢化社会（7%）」から
「高齢社会（14%）」への
移行に要する期間（推計）



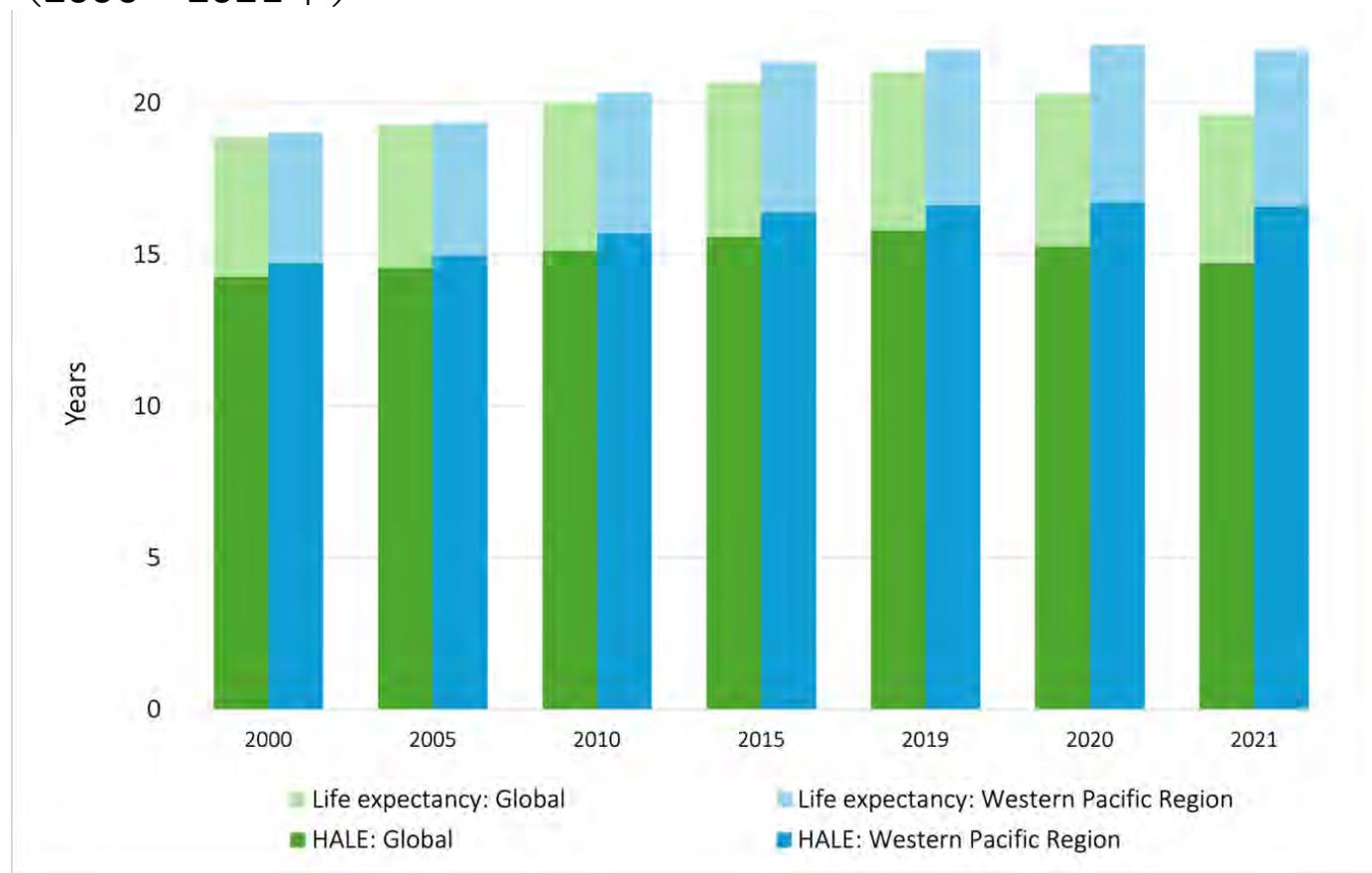
Source: United Nations Department of Economic and Social Affairs, Population Division (2)

Source: Dr. Hiromasa Okayasu, WHO/WPRO Lecture at Osaka Univ. 20 Nov.2021, with modification

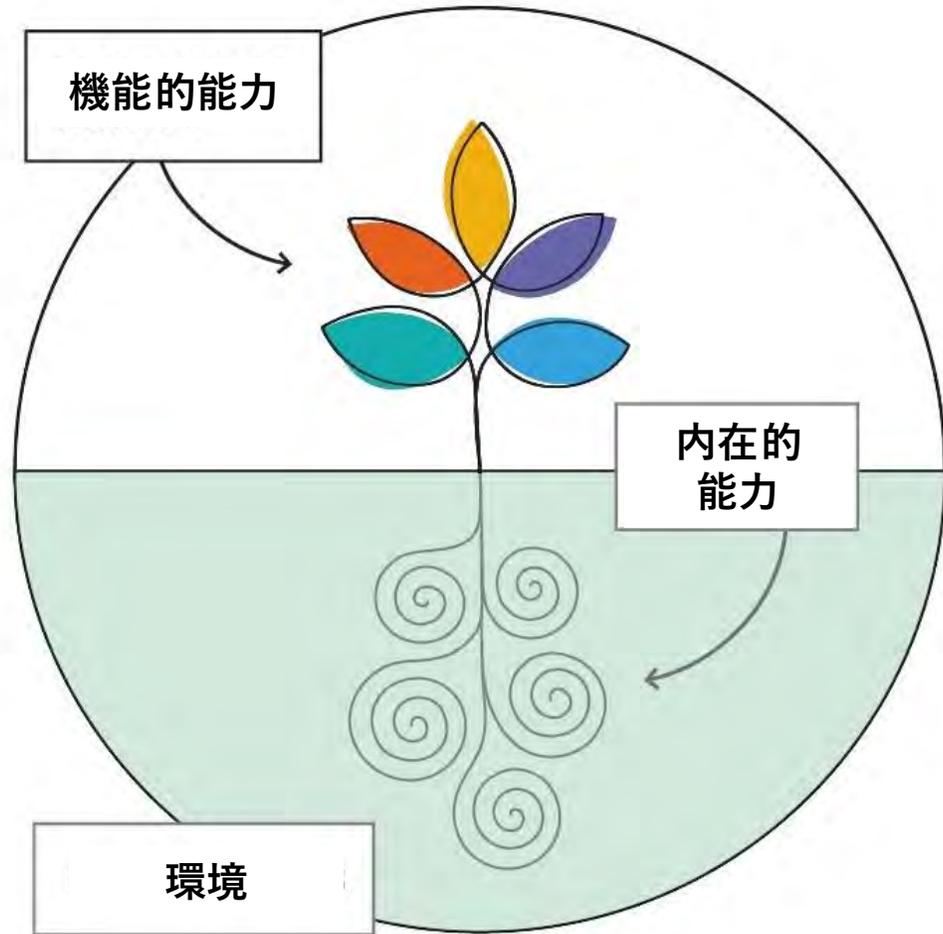


平均寿命は大きく延びているが、必ずしも健康寿命（HALE）が同様に延びているとは限らない

60歳時点の平均寿命と健康寿命（HALE）：世界および西太平洋地域（2000～2021年）



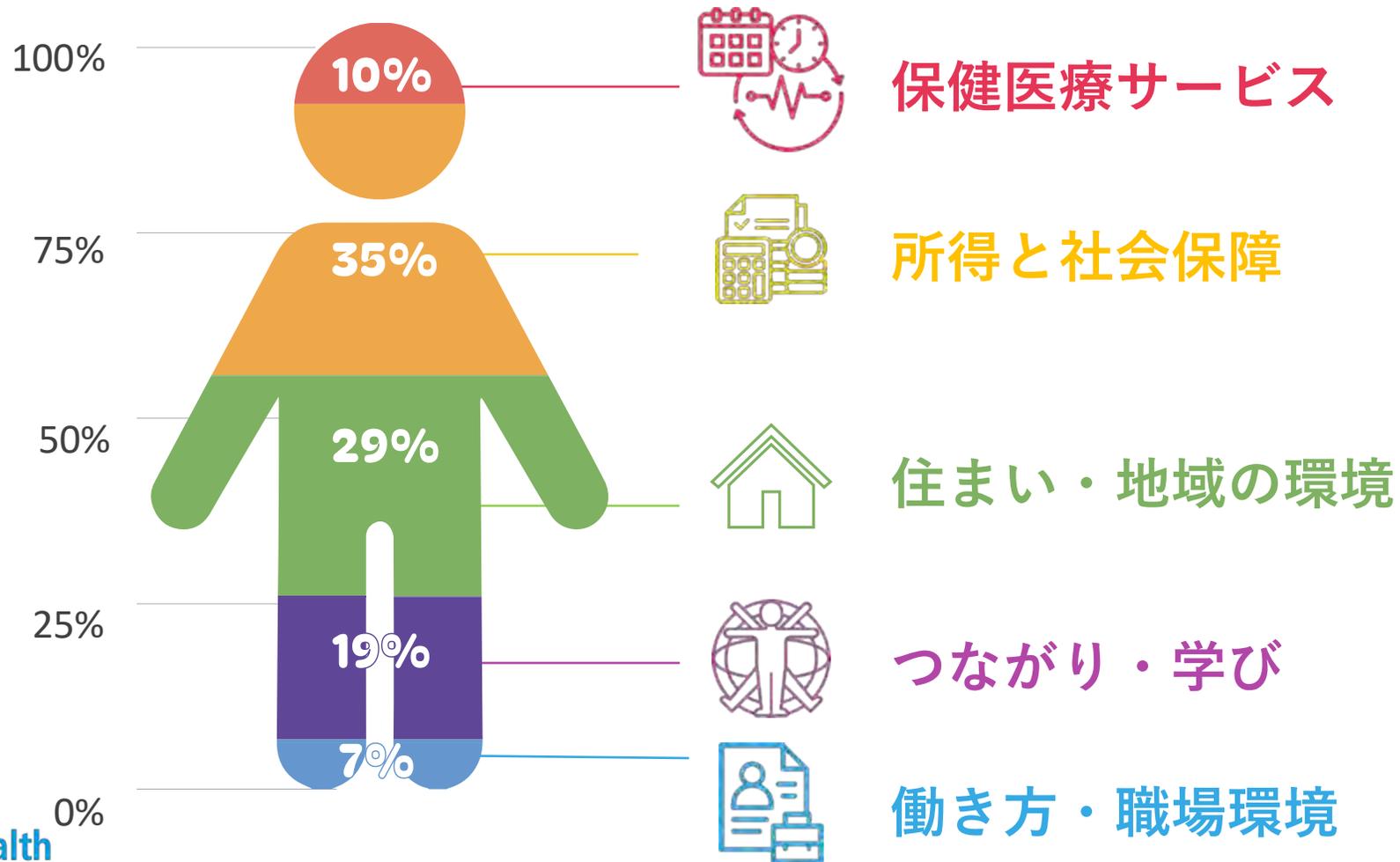
健康的な高齢化（WHO）の定義：鍵は「機能的な能力（FA）」



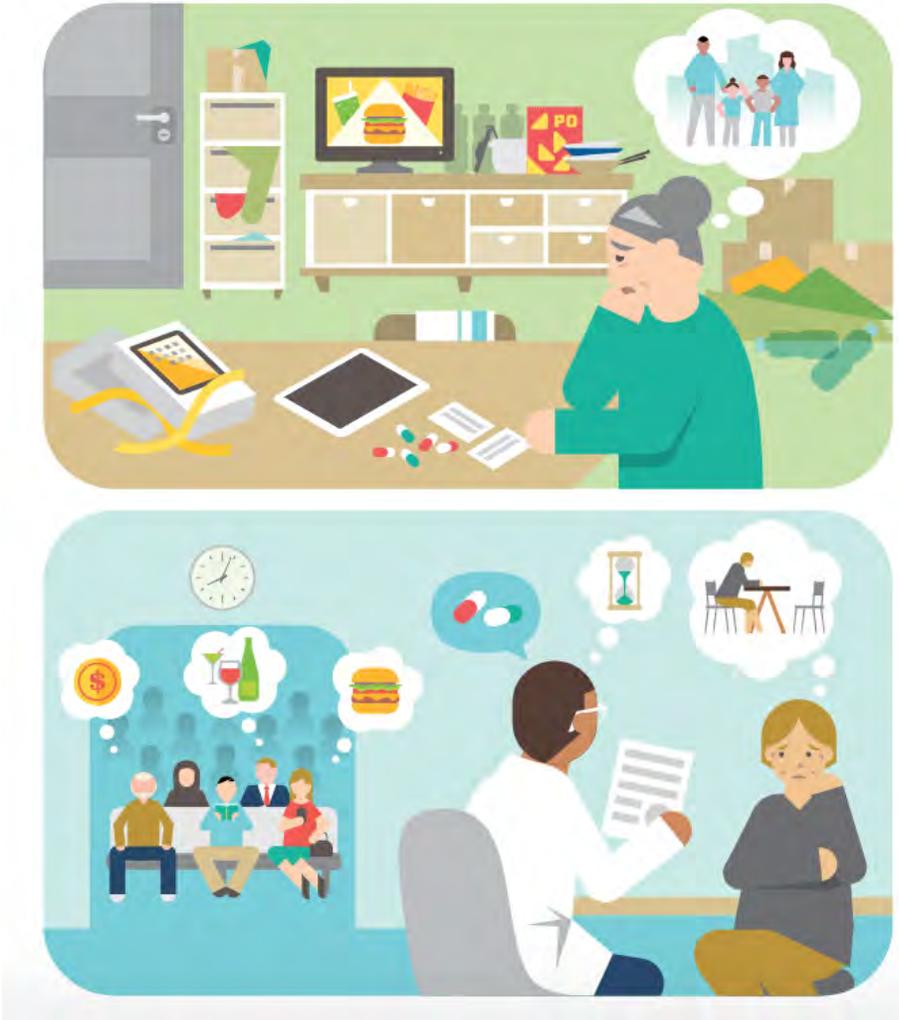
WHOの定義：健康的な高齢化とは、ウェルビーイング（幸福・生活の質）を可能にする「**機能的な能力（FA）**」を発達させ、維持するプロセス。

- **機能的な能力（FA: Functional ability）**：自分らしく暮らし続ける力
- その土台は **内在的な能力（IC: Intrinsic capacity）**：体と心の力（聴力・視力・筋力・認知など）
- そしてFAは **環境** によって大きく左右される
環境＝住まい、道路や交通、地域のつながり、情報の届きやすさ、制度・サービス（医療・介護・福祉）

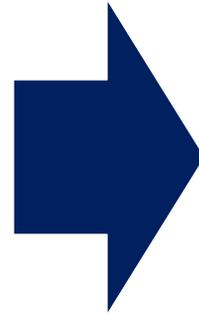
健康の成果の多くは、保健医療サービス以外の要因によって決まる



「治す医療」から「健康を支える仕組み」へ

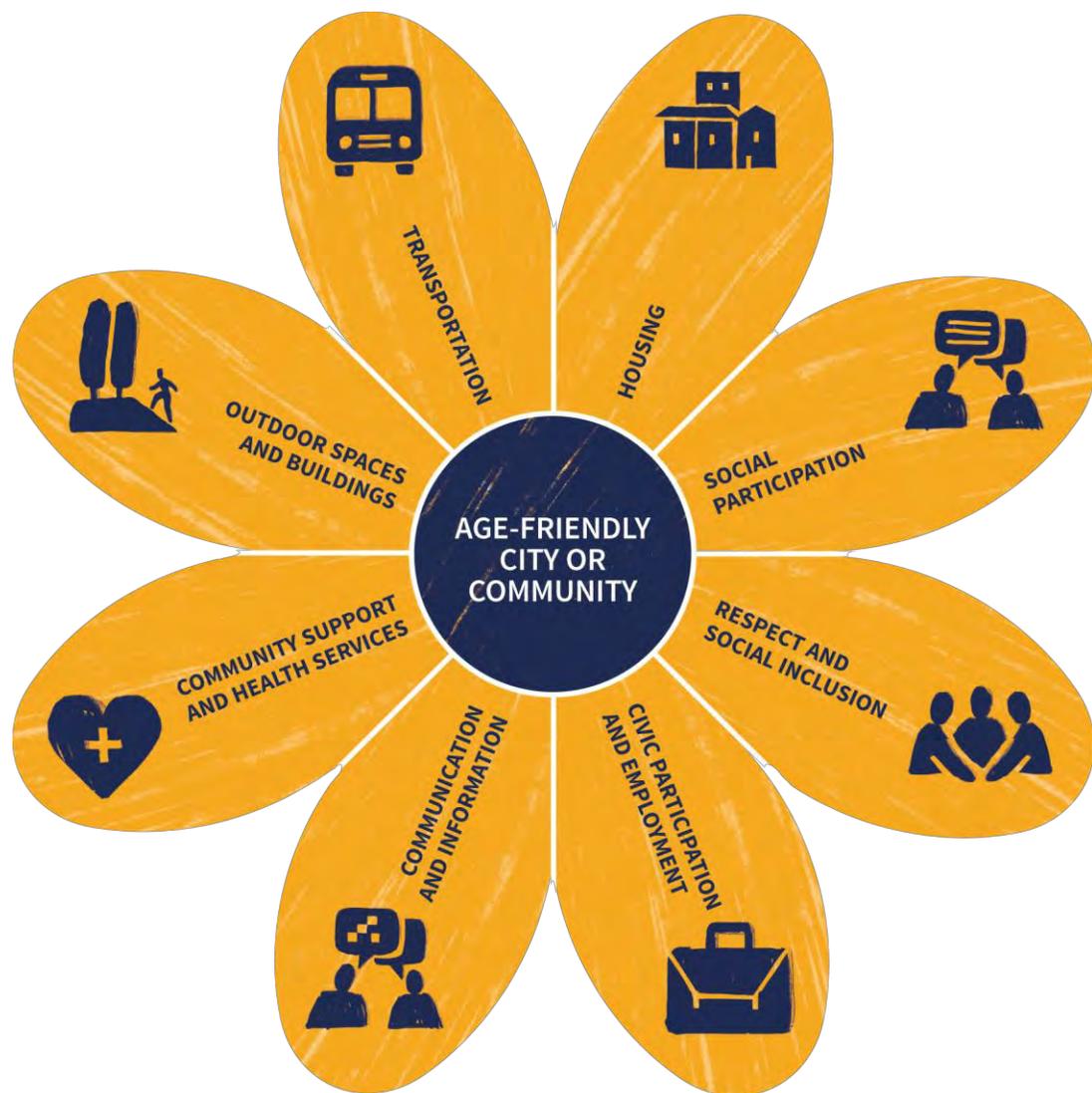


従来：治療中心



これから：健康を支える仕組み

エイジフレンドリーシティ（WHO）の枠組み：8つの領域



8領域を通じて、必要なサービスへのアクセスと社会参加を高め、「自分らしく暮らす力」を支える

1. 屋外空間と建物
2. 交通
3. 住居（住まい）
4. 社会参加
5. 尊重と社会的包摂
6. 市民参加と就労
7. コミュニケーションと情報
8. 地域の支援と保健医療サービス

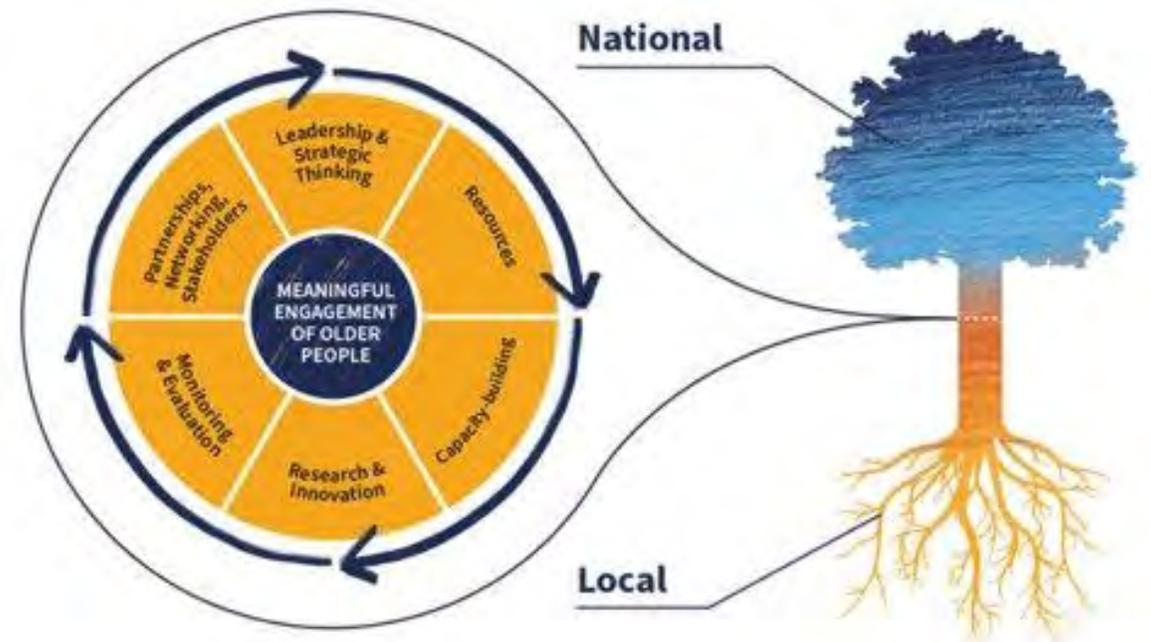
地域の実践 × 国の支え：エイジフレンドリーシティを進める仕組み



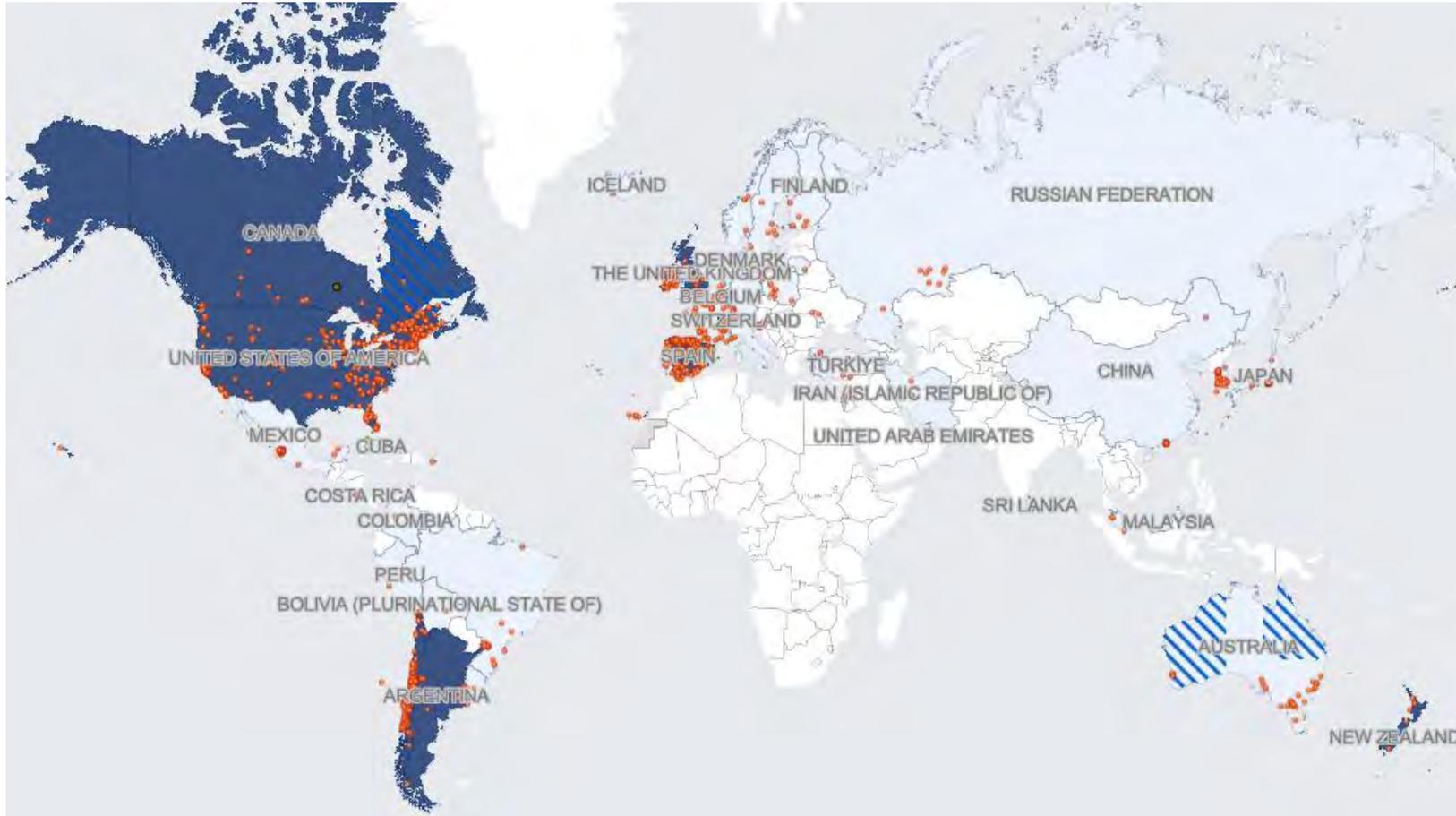
人材・資源・データ（評価）・連携を整え、地域の取組を後押しする

理解 → 計画 → 実行 → 評価・改善
(サイクル)

高齢者の**意味ある参画**を
最初から最後まで確保する



WHOグローバルネットワーク：エイジフレンドリーシティ&コミュニティ



世界：57か国・1,739の
都市・コミュニティ

日本：24自治体
(2026年1月時点)



WHO Global Network
for Age-friendly Cities
and Communities



WHO グローバルネットワーク
高齢者に優しいまち

日本でも活かせる：WHOがつなぐ学び→実装の流れ



that support physical activity and social participation in older adults.



学術の知見を、
「発信・相互支援・学び合い」で、
地域の実装を後押しする。



まとめ

- 健康寿命を伸ばす鍵は、医療だけでなく「**暮らしの環境**」を整えること。
- エイジフレンドリーシティは、8つの領域で「**自分らしく暮らし続ける力（機能的能力）**」を支える枠組み。
- 大切なのは「**理解→計画→実行→評価・改善**」を回し続けること。
- 高齢者の「**意味ある参画**」を最初から最後まで確保することが成果を左右する。